様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：４４４１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2017
課題番号：２４５２０６８７

研究課題名（和文）大学英語教員の授業改善を促し授業力育成を可能にするポートフォリオと教材開発の研究

研究課題名（英文）Research on techer's portfoli and materials to develop teaching skills for college teachers

研究代表者
村上　裕美（Murakami, Hiromi）

関西外国語大学短期大学部・英米語学科・准教授

研究者番号：８０３００２８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的であった大学英語教員の授業改善を促すために様々な教材や指導法を紹介するセミナーや講習会を開いてきた。また、英語教員の自己内省を促し、授業改善に努める機会を提供することを目的とした英語教員のためのポートフォリオも開発し、種々の研究大会にて発表しつつその効果を検証し、ポートフォリオの一定の完成に至った。このポートフォリオは書籍や研究論集に投稿し、一人でも多くの方の目に止まる努力を行ってきた。また、研究の成果として英語授業学として研究内容をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology is trying to offer more practical and communicative teaching curriculum for Japanese English learners. This means that Japanese English educators need to learn new teaching skills and methods. In the Japanese education system, there is no official teacher training institute or trainers for teachers in higher education. To remedy this issue various research groups and Faculty Development programs at each university try to offer a variety of programs to support teachers. The author also trying to offer various kinds of training activities for college teachers In other words, gaining new teaching skills is not just a matter of understanding the method but also entails a comprehensive understanding of education.
This study aims to support English teachers by offering the portfolio and materials in order to develop their teaching skills.

研究分野：英語授業学

キーワード：英語授業学　英語教師用ポートフォリオ　授業改善　授業力育成

１．研究開始当初の背景

挑戦的萌芽研究にて客観的な授業観察による授業改善を可能にする授業観察シートおよび授業改善のための手引書の研究と開発を行った。しかし、授業公開がなかなか実現しない現実のなか、デザインしたシートを活用しその効果を検証することができない環境に合った。そのため授業参観が実現しない教員に自身の内省により授業改善を促す英語教員用ポートフォリオを開発した。しかし、大学英語教員の授業改善に対する意識がまだまだ低かった。そこで、授業会改善という言葉を用いずに、教材研究や教材開発をおこなう視点にシフトし、授業改善への環境づくりを行いながら心的バリアを取り払い、授業改善を日常的な風土にする活動を行うことにした。

２．研究の目的

本研究ではそのシートおよび手引書の更なる充実度を高め完成させるとともに、英語教員用ポートフォリオの完成度を高めることを目的とする。また、授業改善に抵抗感を持つ教員に環境作りを図るための各専門分野の視点から作成した英語教材をウェブ上で公開することにより、英語指導法や授業力を学ぶ機会を提供し、総合的な大学英語教員の授業改善と授業力育成を実現する機会を提供する。

３．研究の方法

3 つの研究目的の達成のため以下の計画および方法を取る。基本的に学期終了ごとに改善を図る。

ｉ）授業観察シートおよび改善のための手引書は研究メンバーが個々の大学におけるＦＤ授業研究にて使用し、問題点等を検討し改善を図る。発表や講演を積極的に行い今以上の周知を試みる。

ii）大学英語教員用ポートフォリオの更なる充実を図るため、研究メンバーが使用しその効果について検討を重ね改善を加え完成させる。また、出版後の使用者からのフィードバックやインタビュー等を通して研究を重ねると同時に、発表や講演を行い教員育成の機会を提供する。

iii）早期に研究成果の教材や研究に関する情報を発信する環境を整えるためホームページの開設と環境づくりを行う。

４．研究成果

本研究において、当初、メンバーと共有する英語資料を用いて、メンバーそれぞれの専門分野の視点に立った英語教材を作成し、ウエブページにて提供した。1 つの英文から、視点を変えることにより様々な指導の方法があることを紹介したかった。しかし、教材をアップしても使用を試みたいと申し込んでもらうことがなく、研究の目的が達成しないため、活動の方向転換を余儀なくされた。積極的に国内外の研究大会に参加し、活動内容や研究課題について発表をおこない認知度を高める努力も続けてきた。

ウエブページでは、様々な英語教育に関する情報や本研究が主催する研究会や講演会、ワークショップ、セミナー等を紹介した。会を重ねるごとに参加者が増え、授業の悩みを持つ教師や改善をしたくともその方法がわからない教師が集うようになった。

教師の様々な声をもとに本研究の 6 年間（延長１年）に精力的な講演会等の開催を行い授業改善や指導法を学ぶ機会を提供してきた。

これらの活動を評価いただき、大学英語教育学会において授業学関西研究会を、またメディア英語学会においてメディア英語教授法・教材研究分科会を運営する機会を得た。これらの研究会においてさらに授業研究や授業改善を試みる教師が全国から集うようになり、活動を注目してもらえるようになっただけでなく、研究活動を共にする研究グループに成長した。また、大学英語教師だけでなく、英語教師として共通点があることから現役の中学・高校の教員をはじめ小学英語指導者や自宅で英語教室を開講する教師にいたるまで活動メンバーが広がった。

本研究を注目いただき、京都府立大学にて「英語授業学」というテーマで大学院生と学部生とともに本研究内容を学べたことは大きな成果といえる。これまで萌芽研究から 9 年間研究し、活動してきたことが「英語授業学」として一つのおおきな枠組みを構成し、その中に多くのカテゴリが内在することを証明できた。(表 1)

表 1　英語授業学の研究対象の一覧

教師	要因	細分項目
T-1	授業力	授業法
T-2	教材活用・開発	研究・指導法

T-3	資質・ビリーフ	
T-4	教員の動機つけ	失敗からの授業改善
T-5	内省と改善	
T-6	インタラクション・ラポール	学習者・保護者・教師との関係性
T-7	進路・キャリア指導	
T-8	評価	テステイング
T-9	研究活動	専門・教授法
T-10	英語力	
T-11	生徒指導・担任	

学習者	要因	細分項目
S-1	学習と成果	
S-2	学習動機づけ	
S-3	人間形成	
教育機関		
F-1	学習環境	機器・設備
F-2	危機管理	災害対策 いじめ対策
F-3	教育理念 カリキュラム	
F-4	指導方針	
F-5	教員採用　注 2	
F-6	教員教育　注 3	

表１は、*JACET Kansai Journal　NO.20* において言及したカテゴリーであるが、本研究が 9 年をかけて研究してきた中で整理した相互関係のある範疇である。このような広域にわたる領域を含む「授業」、さらには「英語の授業」について研究する際の複雑さと多様性を考えると、授業研究がどれほど困難で細分かされているかを改めて認識する機会を提供できた。同時にそれ故に授業研究が重要であることも確認できた。

本研究の目的であった萌芽研究から継続して行ってきた本研究の成果として大学英語教員のためのポートフォリオをスキル別に指導法と英語力の確認と改善を促す一定効果を得ることができる版として完成させることができた。このポートフォリオについては、京都府立大学の受講学生が分析し、その有効性や期待できる効果、また、さらなる効果を生むための改善点を考察してくれ、学生の視点を取り入れたポートフォリオの実現に繋ぐことができた。ポートフォリオは、表１の要素を複数に連携させながら無意識に考え気付く機会を提供する機会となることも再確認できた。

本研究の最大の成果は、より良い教育の実現を願い、たゆまぬ努力と工夫を続ける教師グループを複数に結成し、その活動を研究機関終了後も継続して行っていく環境作りを実現できたことであるといえる。また、教職課程の学生にこの視点を共有してもらい、充実した英語教育の実現を目指す教員に育てる活動へと進化していることも大きな成果だと言える。

6 年間の研究発表や投稿論文等は書ききれない数に上るため、厳選した活動の報告として以下に報告しているが、詳細は毎年提出している報告書に記載している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①村上　裕美、未来の教員と考える英語教育－＜授業学の観点から＞、京都府立大学英文学会コルヌピア第 28 号、2018、79-118

②村上　裕美、教育理論と授業を結ぶ英語授業学、*JACET Kansai Journal*, 査読有、No.20,2018,95-104

③村上　裕美、アクテイブ・ラーニング最前線：深かい学びを実現する学習活動－リメディアル教育におけるアクテイブ・ラーニング－大学性の学びを再考する－、*JACET Kansai Journal*, 査読有、No.19,2017, 40-57

④村上　裕美、ピアサポートで手書きのポートフォリオを活用することの有効性、リメディアル教育研究、査読有、第 9 巻第 2 号、2014、16-2

⑤村上　裕美、他、 Designing Materials as a Measure to Facilitate Teacher Development: The Use of an Internet Blog、*JACET Kansai Journal* ,査読有,No.16,2012,

〔学会発表〕（計　4 件）

① Murakami, Hiromi, Programs for On-teaching English Teaher's Training: For the Successful Development of Teaching Skills, JUSTEC 2017: 29th Japan-US Teacher Education Cosortium Conference, 2017

②村上　裕美、未来の教員と考える英語教育ー授業学の観点からー、京都府立大学英文学会第 9 回大会、2017

③村上　裕美、大学語学教員の授業力育成のた

めの研修プログラムの開発と考察、第 23 回大学教育研究フォーラム、2017
④村上 裕美、Reflective teachingの試み：血の通った授業改善、大学英語教育学会国際大会2016, 2016

〔図書〕（計 7件）
①村上 裕美. 他、スクリーンプレイ、2015 年第 4 回映画英語アカデミー賞中学生部門、2015
②村上 裕美. 他、スクリーンプレイ、2014 年第 3 回映画英語アカデミー賞、2014
③村上 裕美、ナカニシヤ出版、大学教員のためのＦＤ手帳：MH式ポートフォリオ教員用、2013
④Murakami, Hiromi、*Selected Papers from the Kansai Gaidai IRI Forum 'New Holizones in English Language Teaching: Language, Literature, and Education'*、‘Effectiveness of Implementing Murakami's Portfolios for Teachers and Students’ 2013
⑤村上 裕美、ナカニシヤ出版、学びのデザインノート：MH式ポートフォリオ 大学英語学習者用、2012
⑥村上 裕美、他、金星堂、メディア英語研究への招待』、2012、142-147
⑦村上 裕美、他、ナカニシヤ出版、学士力を支える学習支援の方法論、2012、142-155

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
大学教員の授業力育成
https://blog.goo.ne.jp/hiromikaken

大学教員の授業力育成
https://www.facebook.com/hiromikaken/

大学英語教育学会授業学関西研究会
https://www.facebook.com/jyugyougakukansai.2015/

メデイア英語教授法・教材研究分科会
https://www.facebook.com/メディア英語教授法教材研究分科会-488733618000464/

６．研究組織
(1)研究代表者
村上 裕美（MURAKAMI, Hiromi）
関西外国語大学短期大学部・英米語学科・准教授
研究者番号：80300284

(3)研究協力者
金井 啓子(KANAI, Keiko)
笹井 悦子（SASAI, Etsuko）
高木 佐知子(TAKAGI, Sachiko)
山田 洋子(YAMADA, Yoko)